

鎌倉権五郎と桜の木

この神社には、鎌倉権五郎景政という方が祀られています。

平安時代の中頃、奥州で、阿部氏や清原氏の内乱（前九年の役、後三年の役）が起ったとき、中央の朝廷は、源義家を派遣してこの乱を平定しました。

この戦の時、義家の家来の鎌倉権五郎景政は、左の眼を敵の矢に射抜かれてしまったのですが、矢を自ら抜くとその矢を敵に射返して殺したと言われています。

戦いが終って都に戻る途中、権五郎は友である千葉氏に会おうとこの地を訪ねました。ここで馬を休め、桜の枝で作った鞭を地面に刺し、一息入れたのですが、鞭を忘れて立ち去ってしまいました。

不思議なことに、やがて鞭から根が生え、葉が茂り、大きな桜の木になりました。

※ 鎌倉権五郎については、目洗い池や源五郎鮎など片目

魚の伝説になって全国各地に残っています。特に、東北地方には、彼が射抜かれた目を洗った川や池に住む魚やカジカが、それ以来みんな片目になってしまったという話が多く残っています。権五郎伝説のもう一つに神を祀り、仏堂を建立し、不思議な霊威で神木を植えて塚を築いたなどの伝承があります。

このお話は、これらに属します。

それでは、権五郎の不思議な霊威ということもありますが、昔から恨みを持って亡くなった人たちのたたりを恐れて、その霊を慰めるために御霊神社があることから、その御霊と五郎とが結びついたとも考えられています。

また、五良神社には、曾我五郎、佐倉宗五郎、仁科五郎などの人たちがそれぞれ祀られていることから、御霊信仰と大きなかわりがあったと思われることです。

なお、鎌倉権五郎は、歌舞伎の「暫」の主人公としても活躍しています。江戸の庶民にとって、強くて勇ましい権五郎は憧れの人になっていたのでしょうか。